

令和6年6月19日(水)

校長 慶田盛 元

<6月19日 朝会 校長講話「平和について」>

おはようございます。今日の全校朝会は、校長先生のお話です。最後まで、きちんとお話を聴いて考えてくれると、とても嬉しいです。

6月23日が、何の日か知っていますか？慰霊の日ですね。沖縄戦が終わったとされる日です。

ここで、少し校長先生と沖縄戦とのかかわりについてお話をします。

校長先生のお父さんは、八重山の西表島の出身です。西表では、蚊でうつる病気でマラリアという高熱を出して死んでしまう病気がありました。山には蚊がたくさんいてマラリアのことも知っていましたが、日本軍の命令で山に避難させられ、マラリアにかかり大変苦しんだようです。当時八重山の住民の3万5千人のうち、約3600人がマラリアで亡くなりました。糸満市にある平和の礎には、戦争で亡くなった校長先生のおじいさんとおじさんの名前が刻まれています。

校長先生のお母さんは、宮崎県に疎開をしました。港に行き、対馬丸に乗る予定でしたが、乗ることができず、次の船に乗って宮崎県に行きました。宮崎は、とても寒く食べるものもなくとても大変だったと聞いています。その経験は、「ヤーサン（ひもじいよ）、ヒーサン（寒いよ）、シカラーサン（親元を離れて寂しいよ）」と言われています。乗る予定だった対馬丸は、アメリカ軍の攻撃で沈没してしまい、1788人のうち1484人がなくなりました。

さて、慰霊の日に話をもどすと、この日は沖縄戦犠牲者の霊を慰め世界の恒久平和を願う日です。沖縄県が条例で記念日として定めました。沖縄県だけの休日となります。

沖縄戦は、太平洋戦争の末期である1945年に、日本軍と、沖縄諸島に上陸したアメリカ軍を主体とする連合国軍との間で行われた戦いです。日本軍は沖縄を本土防衛の最後の拠点とし、連合国軍は日本本土に攻め入るための基地として、沖縄諸島を攻略しようと試みました。沖縄戦では、連合国軍と日本軍を合わせて20万人以上の犠牲者が出ています。そのうち、一般の犠牲者は推計で約10万人です。沖縄県民の4人に1人が命を落とした壮絶な戦いで、とても大きな被害がありました。

戦争が終わり、沖縄の人々だけでなく日本の人々は、平和について考え、努力してきたことで、戦争が終わってからこれまで79年間、日本は戦争を起こしていない国です。ちなみに、第2次世界大戦のあと戦争をしていない国は、世界の193か国のうち8か国だけです。その国は、アイスランド、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、スイス、ブータン、日本の8か国となります。

恒久平和とは、どういうことでしょうか。それは、「常に変わらすに平和であること。永久に平和で争いごとなない状態のこと」です。

でも、今、ウクライナで戦争が起こっています。79年前、沖縄や日本、世界中で大きな戦争（第二次世界大戦）が終わり、「二度と戦争はしたくない」と世界中の人々が決意したにもかかわらず、世界から戦争がなくなりません。大変、残念で悲しいことです。

さて、みなさんはこの戦争と平和について、みなさん自身とどういう関係があると思いますか？

校長先生は、2つの点で、関係があると思います。

①これから大人になるみなさんが、平和な世の中をつくっていく責任があるということ

②今、子どものうちに学び、自分で考え行動できる力や人を大切にする力を身につける必要があること

自分と自分の身の回りの「小さな平和」をつくっていくことが、「大きな平和」につながるのです。

自分と自分の身の回りの「小さな平和」をつくるためには、まずは「自分でできることは自分でやる」「自分が困ったら、困っている人がいたら助け合う」ことからではないでしょうか。「自分で考え行動できる力」「人を大切にする力」をつけて欲しいと思います。

だから、学校で「学ぶこと」「ルールを守って安心・安全に生活すること」が大切なのです。

お友達に優しくできていますか？嫌なことがあったらすぐに叩いたり、文句を言ったりしていませんか？人を叩いたりする暴力だけでなく、言葉の暴力もあります。そういった暴力をなくすことが「小さな平和」への第一歩です。

自分の身の回りから、「小さな平和」をつくるのが「大きな平和」につながるのです。

今日から、佐敷っ子のみんなで「小さな平和」をつくっていきましょう！

これで、校長先生のお話を終わります。